

■平成27年度 緑の募金

募金運動期間

春期 平成27年3月25日（水）～ 5月31日（日）

秋期 平成27年9月 1日（火）～ 10月31日（土）

皆様の温かいご協力、ありがとうございました。

「緑の募金」は森林の整備や緑化活動を支援し、きれいな水環境、災害の防止、きれいな空気、温暖化の防止など環境改善に役立っています。

森や緑を育てて、安全で住みよい故郷をつくり、次世代へ引き継いでいくため、一人でも多くの方に「緑の募金」への温かいご協力をお願いします。

平成27年度緑の募金の結果

街頭募金56万円、学校募金114万円、家庭募金1,568万円、企業募金19万円、職場募金346万円、



その他募金110万円、合計2,213万円となり、募金目標額に対し88.5%の実績を上げることが出来ました。

皆様からご協力いただいた緑の募金は、外部有識者による「緑の募金等運営協議会」で審査等を経た上で、緑化事業の推進に大切にに使わせていただき、皆様方の地域環境の改善等に役立たせていただきました。

ご協力いただいた県民の皆様、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



緑の募金等運営協議会



平成27年度事業実施の様子

みどりの少年団交流集会

子どもたちが森林の中での活動や相互交流を通し、緑を守る大切さや健全な育成を目的として、みどりの少年団交流集会を毎年実施しています。

今年も西伯郡大山町の県立大山青年の家において、8月6日（木）～7日（金）の1泊2日で、倉吉市立北谷小学校、湯梨浜町立羽合小学校、琴浦町立八橋小学校、米子市立淀江小学校、米子市立箕蚊屋小学校、米子市立車尾小学校の各みどりの少年団と事務局の総勢60名の参加で実施しました。

最初は緊張した様子の子どもたちも、レクリエーションでさまざまなゲームをするうちに同じ班の友達と打ち解け、その後のグラウンドゴルフは和気あいあいと楽しんでいました。グラウンドゴルフの後は、班ごとに分かれて野外炊事でカレーを作りました。

かまどに火をおこすのに悪戦苦闘しましたが、どの班も上手にご飯が炊け、おいしいカレーをいただきました。



班ごとに分かれて、係を決めました。



レクリエーションでのゲームの様子



ナイスショット



上手に薪を割っています。

2日目の下草刈り作業は、平成25年春、第64回全国植樹祭が開催されたとっとり花回廊「いやしの森」で行われ、みんなが大きな鎌に悪戦苦闘しながらも一生懸命作業をしてくれました。

午後は、青年の家でウッドクラフトをしました。

大山青年の家の指導員の先生や引率の先生など多くの方々のご協力をいただき、予定していた日程をすべて滞りなく実施することができました。少年団のみんなも元気に活動し、交流を深めることができました。



大山のさわやかな朝。ラジオ体操をしました。



とっとり花回廊いやしの森での下草刈り作業



メモリアル記念館



ウッドクラフト



かわいい作品ができました。



交流集会の感想を書きました。

子どもたちの感想

☆レクリエーションで、緊張して自分からしゃべりかけて話すことができなかったけど、じゃんけんしたり、みんなで仲良く協力して、いろんなゲームができてよかったです。

☆グラウンドゴルフでは、最後のホールで3打でゴールに入れることができました。

☆初めて会った人達とも協力して作ったカレーは、家で食べるカレーとは違う美味しさがありました。

☆下草刈りで、見本を見せてもらった時は簡単そうに見えたけど、いざやってみると難しかったです。

☆緑を大切にしてもっと緑を広げていきたいと思いました。

☆ウッドクラフトで、大山の自然をイメージして、花や木を作りました。

☆この2日間、たくさん友達ができたし、友達と協力する楽しさを味わえてよかったです。

☆家に帰って、家族にたくさん話したいです。



全員で記念撮影！楽しい思い出がたくさんできました。

■学校環境緑化モデル事業完成式

ローソン緑の募金を活用して

子ども達に環境教育と憩いの場が完成しました。

11月14日、日野町立黒坂小学校（神庭賢一校長）で学校環境緑化モデル事業の完成式が行われました。

この学校環境緑化モデル事業は、（公社）国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」事業のうち、「ローソン緑の募金」部分を財源とした助成事業で、各県の緑化推進委員会を通じて全国60の小中学校に助成がなされるものです。

平成27年度、鳥取県内では日野町立黒坂小学校が1校助成決定を受け事業に取り組みました。このほど事業が完成し、全校児童36人、教職員12名、保護者23名、株式会社ローソン関係者5名、日野町役場より4名と鳥取県緑化推進委員会の岡村常務理事が出席し、完成式が行われました。

今回、学校環境緑化モデル事業としてビオトープ「黒坂小学校かわっ子の泉」の整備を行いました。児童も保護者と一緒に約50平方メートルの池の石積み作業を行い、完成したビオトープにメダカやクロゲンゴロウなどを放流しました。

ビオトープの整備を行うことで子どもたちが自然と触れ合う機会ができ、命の大切さ、生物や人間にとって優しい環境の大切さを学ぶ環境教育や情操教育が期待できます。また、保護者、地域の方々や子どもたちのコミュニケーションや憩いの場となるでしょう。

このビオトープを活用して、生き物の観察や理科の学習に生かしてほしいと思います。



■緑の募金贈呈式

9月11日、株式会社イブキ代表取締役社長 伊吹直様より緑の募金を贈呈していただきました。

イブキブランド鶏卵パックのラベルに「緑の募金」ロゴマークを付け、その売り上げの一部を「緑の募金」として寄付されたものです。ご協力ありがとうございました。



株式会社イブキ小谷営業課長様より

■誕生記念樹贈呈事業

お子様の誕生をお祝いするとともに、緑を育てることの大切さを親と子どもに共有してもらうため、県内に居住している誕生1年以内の赤ちゃんを対象に「誕生記念樹贈呈事業」を実施しました。平成26年9月1日～平成27年8月31日生まれの赤ちゃんを対象に募集したところ、121名の応募がありました。

贈呈した記念樹は高さ80cm程度の「キンモクセイ」、高さ80cm程度の「ハナミズキ」、高さ30cm程度の「ヤマアジサイ」の3種類のうちの1種類で、段ボール箱に箱詰めし11月初旬に発送しました。

お贈りした誕生記念樹がお子様の成長を見守り、緑の充実に役立つことを願っています。



贈呈したヤマアジサイとかすみちゃん



贈呈したキンモクセイと結太くんとお母さん

■緑の募金交付金事業

米子市淀江地区中間海岸の黒松植樹について

米子市支部の取り組み

鳥取県の海岸砂丘地では農地や宅地を飛砂や潮害から守るために江戸時代からクロマツが植樹されてきました。米子市淀江町地区中間海岸も以前は東西に続くきれいな松林でしたが、松くい虫被害や平成23年の雪害により疎林化が進み、現在では数本を残すのみとなっていました。もう一度、40年前の美しい日本海の松林を再生し、また風害・潮害・飛砂を防止するために植樹活動を行いたいと、海岸付近に共有地を有する中間・新道・亀甲の3自治会からクロマツ植樹についての計画の声が上がりましたが、苗木等の経費負担や植樹についての技術不足の問題で具体化できない時期が続いていました。そんな中、3地区の自治会長より、鳥取県緑化推進委員会米子市支部に相談があり、米子市支部の緑の募金交付金活動として、3自治会と共同して

クロマツの植樹活動を行うことを決定しました。

平成25年度は森林組合の職員の方の指導のもと、3自治会（参加者約120名）と緑化推進委員会米子市支部により抵抗性クロマツ3,000本の植樹を行いました。



平成26年度には前年に植えたクロマツを潮風より保護することを目的とし、海岸側にサンゴジュを50本植樹しました（参加者：約40名）。



平成27年度は、クロマツの補植（600本）とサンゴジュとウバメガシを各40本植樹しました（参加者：約40名）。



また植樹後の下草刈り等についても、3自治会の地域活動として行われています。

現地は、肥料置き場等として利用されていた時期もあってか、土質が悪いため、苗木の活着率が低く、今後何度か補植を行わなければならない状況です。しかしそのことが、50年以上かかるクロマツの成長を地域で見守り、またこの事業を次の世代に引き継いでいく、といった住民の意識を高めており、米子市支部も今後もこの事業に協力し、地区の緑化に貢献していこうと考えています。

会員募集のお願い

公益社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源として、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された公的団体です。

本委員会の組織運営は、緑の募金及び正会員（県、市町村、団体、個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同いただける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費：個人・団体・企業 一口 1万円

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220
（鳥取県農林水産部森林・林業振興局内）
（公社）鳥取県緑化推進委員会
電話：0857-26-7416
FAX：0857-26-8192
URL：<http://www.tottori-green.or.jp>